

水たまりのピラルク（てんコミ 34 巻）

京都大学理学部 1 回生 前田悠陽

この話の魅力について

・しずかちゃんがのび太に対してとにかく優しいこと

この話では、しずかちゃんは終始優しさに溢れています。スネ夫に仲間外れにされたのび太に対して、「いじわるする人きらい。」と言ってのび太と一緒に遊びに行くことを選んだり、のび太のせいでスネ夫とジャイアンに恥をかかせられてものび太に愛想を尽かすことなく、逆に慰めてくれたりと、まさに天使のような女の子です。

・のび太の頑張りが、全部空回りしてしまうこと

ドラえもんに借りたスベアポケットから道具を出して、自分の味方をしてくれたしずかちゃんを楽しませようとするのび太ですが、せっかくならこをタラに戻して釣り上げたのに、しずかちゃんを呼びに行っている間にタイムふろしきが被さってたらこにもどしてしまうなど、のび太の努力はことごとく失敗してしまいます。一度喜んでから落ち込むのび太の姿は、哀愁さえ感じさせます。それが心に刺さって、なんとも言えない気持ちになるのです。

・のび太の成長

この話では、最初はスネ夫に仲間外れにされて見返してやろうとしていたのが、途中から「自分の味方をしてくれたしずかちゃんを楽しませる」ことにのび太の目的が移っているんですね。うまくいなくて、「…なんならあっち（スネ夫のところ）に行ってもいいよ。」や「せっかくしずちゃんが来てくれたのに、なんにもしてあげられない。」というセリフには、「しずかちゃんが楽しめるなら、それは自分の隣でなくてもいい」という、ある種達観した、どこまでもしずかちゃん本意なのび太の考えが感じ取れます。のび太は感情に任せて行動する“子ども”から、相手のことを考えて行動するという“大人”へ向かって、確実に成長しているのです。ドラえもんがないとうまくいかない、という幼さと、しずかちゃんのことをいちばんに考える大人らしさの狭間にいるのび太が見られるのが、この話の醍醐味であるように思います。

のび太の成長を感じさせるような話は数えきれませんが、この話はそうした部分があまり強調されておらず、さりげなく表現されているところが個人的にとっても気に入っています。

ぜひ実際に読んでみてください。